

3 歳児実践事例

「教師をよりどころにしながら、友達との関わりをきっかけに、
自分のやりたいことを楽しんだ事例」

男児7名 女児4名 計11名

1 子どもの実態

入園当初は、喜んで登園したり、初めての集団生活で戸惑う様子を見せたりするなど、様々な姿が見られた。幼稚園生活に慣れ、身支度や排泄など、身の回りのことを自分でできるようになってくると、幼稚園生活に安心感をもち、表情良く登園するようになっていった。

入園当初から、ままごとやミニカーなど遊び慣れた環境に興味をもち、自分から関わって遊び出す子どもが多くいた。さらに2学期以降は、教師をよりどころにしながら、友達のしていることに興味をもち、まねたり、同じ場で遊んだりすることに楽しさを感じ始めていた。

〈A児の実態〉

入園当初から幼稚園生活に不安と戸惑いを感じ、緊張した表情で登園していた。次第に登園時に母親と離れることを嫌がり、泣きながら登園する姿が見られるようになった。教師は、本児が幼稚園生活や教師に対して安心感や親しみをもてるよう、ありのまま思いを受け止め、一緒に身支度したり、スキンシップをとったりしていった。少しずつ教師に対する親しみがうまれ、教師と一緒に自分のやりたいことに関わって遊ぶようになった。また、教師をよりどころにしながら、偶然居合わせた友達と同じ場で過ごしたり、同じ物を身につけて遊んだりすることを楽しむ姿が見られるようになってきた。しかし、登園を渋る様子や、遊び出すまでに時間がかかる姿がまだ見られる。

2 教師の願い

教師をよりどころにしながら、友達のしていることに興味や関心をもち、まねたり自分の遊びに取り入れたりして遊んでほしい。

〈A児への願い〉

教師をよりどころにし、自分のやりたいことに関わって遊ぶ中で、友達と同じ場で遊ぶ楽しさを味わってほしい。

3 保育の実際

教師の援助・環境構成と子どもの姿	教師の援助・環境構成の意図
<p>〈環境構成〉</p> <p>①教師が玄関でその思いを受け止めながらも、興味のあるような会話をしたり、一緒に身支度したりしていくと、気持ちも向き、自分で身支度を始めたり、教</p>	<p>〈環境構成の意図〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 牛乳パックの囲いなど子どもが扱える物を環境に出しておくことで、自分たちで遊びたい場をつくったり、つくった場で遊んだりしてほしいと考えた。 <p>① A児が気持ちを切り替えて身支度をしたり、遊び出したりしてほしい</p>

<p>師と会話を楽しんだりし始めた。身支度をする中では、「もう手を洗うだけだよ。」とうれしそうに教師に伝えてきた。</p> <p>身支度を終えた後は、教師のそばで教師や友達が遊ぶ様子を見たり、思い付いたことや知っていることを教師に話したりしながら過ごしていた。②教師は、<u>A 児との会話を楽しんだり、楽しそうに遊ぶ姿を見せたりした。</u>教師と一緒に友達の遊びを見たり、一緒に遊んだりしていく中で、牛乳パックの囲いに自分から触れて遊び出した。③教師は<u>本児が自分から関わって遊び出した環境を保障し、そばで見守った。</u>A 児は、教師の存在を感じながら、牛乳パックの囲いをつなげたり重ねたりして遊ぶことに夢中になっていた。しばらく遊んでいると、「これ、車だよ。」と伝えてきた。④教師は、<u>A 児がつくって見立てた物を受け止め、「素敵な車ができたね。」と声を掛けると、うれしそうに一番前に座って運転しているつもりを楽しみ始めた。</u>するとままごとコーナーでごちそう作りをしていた B 児と C 児が楽しそうな雰囲気を感じて、「乗せてください。」と関わってきた。A 児はうれしそうに「いいですよ。」と答えた。⑤教師は「<u>お客さんが来てくれてうれしいね。」と声を掛け、そばで見守った。</u>その後、3人で車に乗ったつもりを楽しんだり、思い付いたことを互いに話したりしながら遊びが続いた。</p>	<p>と考えた。</p> <p>②③ A 児が教師や友達の遊びを見る時間を保障した。自分から関わって遊び出した環境を大切にすることで、自分からやりたいことを見つけて遊び出してほしいと考えた。</p> <p>④ 見立てたり見立てた物で遊んだりする楽しさを感じてほしいと考えた。</p> <p>⑤ 友達を感じ、同じ場で遊ぶうれしさや、自分のやりたいことを友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしいと考えた。</p>
---	--



4 考察

- 登園時に気持ちが不安定であった A 児が、気持ちを立て直し、身支度や遊びに向かうことができたきっかけとして、いつも変わらずに受け止めてくれる教師の存在が大きいと考える。また、「もう手を洗うだけだよ。」という A 児の言葉から、生活習慣の自立が A 児の自信につながり、A 児が気持ちを立て直して遊びに向かう土台となっていると考える。初めての集団生活を経験する 3 歳児にとって、変わらずに受け止めてくれる教師の存在や安心して遊ぶことができる環境があるということが改めて大切であることが分かった。また、生活習慣の自立が自信と心の安定につながることから、一つ一つ丁寧に進めていくことが大切であると感じた。
- 自分の好きなことができる環境(積み木で遊びたい場をつくる)があること、3 歳児にとって扱いやすく、自由に作り変えることができる素材(牛乳パックの囲い)があることが、A 児が主体的に環境に関わり、教師から少し離れて遊び出すきっかけとなった。普段から、子ども一人一人の興味や関心を、様々な姿から捉え、環境構成や援助に生かしていくことが大切であると改めて感じた。また、扱いやすい環境や魅力的な環境を用意することが、主体性の育成につながることから、育ちや実態を捉え、環境構成の工夫を図っていくことが大切である。
- 教師がそばで見守ってくれているという安心感の中、B 児や C 児が心地よく関わってきてくれたことで、A 児の表情が変わり、より自分のやりたいことを楽しむ姿に変わった。このことから、A 児が最も心を動かし、主体的に遊びを楽しむ姿につながったきっかけとして、自分の楽しんでいることを一緒に楽しんでくれる友達の存在が大きいと感じた。少しずつ友達に目が向き始めているこの時期、教師は、自分のやりたいことを楽しめる環境を保障しながら、友達の存在を感じ、関わり合いながら遊ぶことができる環境や援助を工夫していく必要がある。